

Special Interview OB・OGの今

Alumni Report

落語家

三遊亭 鬼丸 さんゆうてい おにまる

大学での学びを活かし、
落語家としてセルフプロデュースしてきた。

大学時代を振り返ってまず思い出すことは、部活動とゼミの2つです。地元の長野から出てきて、何か新しいことを始めようと選んだのがラクロス。当時は創部をしたばかりで、ラクロスというスポーツ自体そこまで知られていなかった。だからこそ、そこに集まったメンバーたちは個性が強く、さまざまな刺激をもらいました。

ゼミでは、マーケティングを研究していました。お世辞にも真面目に勉学に励んだとは言えませんが、ゼミの時間は特別でした。ケーススタディをゼミ生同士で議論する機会が多く、「答えが1つじゃなくていいこと」を考えるのが面白かったですね。

印象深く身につけていることが、マーケティングの「4P（プレイス・プロダクト・プライス・プロモーション）」という考え方。今でも、落語家・三遊亭鬼丸としてのセルフプロモーションに生きています。周りで同じように切磋琢磨する落語家仲間と差別化を図るために、「自分は何をすればいいか?」「鬼丸という商品をどう世の中に売り込むか?」、落語家としての自分とは別にもう1人、商人としての自分が常にいます。そのおかげもあってか、寄席にラジオにと活躍の場は増えています。

4Pの考え方は寄席の舞台にも生きています。自分が出演する寄席には、ラジオをきっかけに見に来てくださる方も多く、初めての方でも分かりやすく面白い演目を意識したり。反対に単独公演では、落語家・三遊亭鬼丸の新たな一面を披露したりと、状況によって自分の見せ方を変えています。この発想があったから今の私があると言っても過言ではないですね。

興味や好奇心を大切に、
いつまでも、面白い人でいたい。

落語家になって良かったと思うことは、自分の好きなことで生きていけるということ。師匠である3代目・三遊亭圓歌に弟子入りし、落語家として歩み始め、真打に昇進、ラジオ番組がスタート、単独公演も開くことができています。これは決して自分1人の力で成し得たことではなく、周りの方々の支えがあったからこそ。本当に感謝です。

与えてもらったチャンスに対してきちんと結果を提供する。そのために、しっかりと準備して臨む。その繰り返しです。令和元年度「彩の国落語大賞」受賞は、その繰り返しを行った成果だと思います。偉大な先輩方が名を連ねる賞を受けたことは、本当に嬉しいことです。でも、ここで満足してはいけません。70歳を超える先輩方が今でも、若手たちに最近の笑いや流行を食欲に聞いているんです。もっともっと面白い人になりたいですね。いろいろなことを見聞きし、経験して、新たな一面から、もっと笑いを届けていきたい。

だからこそ好奇心や興味をもつことが大切だと思っています。数年前アメリカへ初めて1人旅へ行ったときに大リーグの試合を見て「生まれ変わったらスポーツビジネスの世界で働きたいな」と思うほど素晴らしい感動を得ました。今の時代、ネットに情報が溢れ、「知った気」にはなれます。でも、そこで止めるのは本当にもったいない。情報を体験や経験に変え、自分の価値につなげていくことが何より大切です。40歳を超えてもなお、価値観が変わるほどの体験はできるんです。もしこれが感受性豊かな学生時代だったら、きっとかけがえのない財産となったことでしょう。若いうちにさまざまなことを経験しておくことは価値のあることですよ。



Profile

1996年、経営学部経営学科卒業。1997年1月三遊亭圓歌に入門し同年5月、初高座を踏む。2010年に真打昇進。2020年3月に、令和元年度「彩の国落語大賞」を受賞。FMラジオ局NACK5で「GOGOMONZ(ゴゴモンズ)」のメインパーソナリティーを務めるなど、ラジオ・TVでも活躍中。



鬼丸さんが語る、落語との出会いや落語の魅力が詰まった特集記事『【動画】初心者でも大丈夫！三遊亭鬼丸さんの「落語のすすめ」』をWebメディア「LINK UP TOYO」にて公開中です。

LINK UP TOYO

検索

